

ぐんぐん↑↑2024

R6.10.11

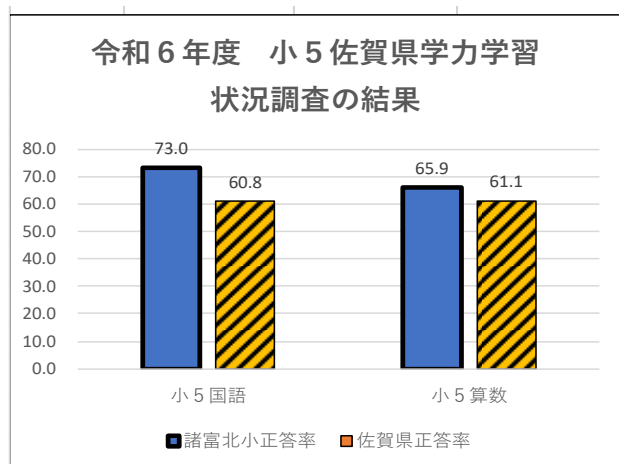
第 6 号 ↑ 本校 HP



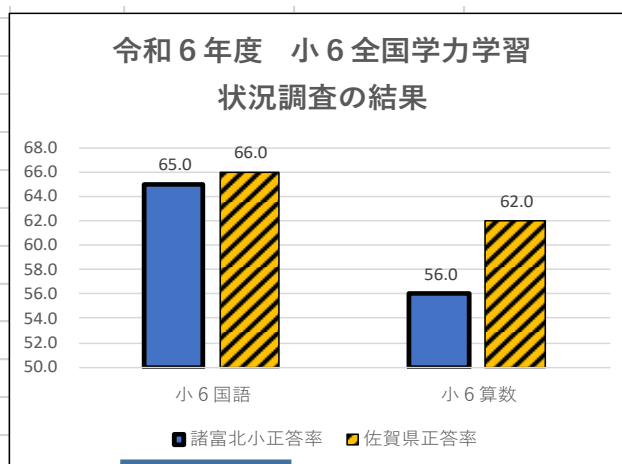
仲秋の候、ますますご盛栄のことと思います。20 日(日)には運動会も予定されており、より体調面の管理が大切な時期です。また、学習面では前期と後期の折り返しがありますし、通知表「あゆみ」も配布されます。学習や生活についての目安の一つとしてご覧ください。後期からも諸富北小学校全体が生き生きと学んでいくことができるように、子ども達の背中を押していきます。



◇◇学力学習状況調査（全国・佐賀県）の結果が出ました◇◇



	諸富北小正答率	佐賀県正答率	対県比 (到達状況)
小 5 国語	73.0	60.8	1.20
小 5 算数	65.9	61.1	1.08



	諸富北小正答率	佐賀県正答率	対県比 (到達状況)
小 6 国語	65.0	66.0	0.98
小 6 算数	56.0	62.0	0.90

4月に全国の小学校6年生が受験した「全国学力学習状況調査」と佐賀県の小学校5年生が受験した「佐賀県学力学習状況調査」の結果が出ました。この調査では、それぞれの学年に対して、前学年までに学習した内容についての問題が出されます。つまり、6年生は5年生までの内容が、5年生は4年生までの内容がどれくらい身に付いているのかを確かめるテストです。本校の子ども達の結果は個人票として通知表と一緒に 10/11(金)に配布します。上記の結果や個人票を参考にしながら、うまくいっている点や課題について今後の学習への参考にしていただきたいと思います。また、全国(小6実施)の分については、全体の結果と考察について学校のホームページにも載せますので、そちらもご覧ください。5年生以下の子にとっても傾向をつかめると思います。

今回は、6年生の国語は県の平均とほぼ同じくらいですが、算数で少し定着が足りていないようです。5年生までの復習が必要です。5年生については、国語も算数も県の平均上回っており、4年生までの内容が身に付いていることを表しています。5年生6年生とそれぞれに課題が見え、学校としても授業改善を続け、「分かる⇔できる」を目指し、進んで学ぼうとする学習環境を設定していく必要があると考えます。

子ども達に力を付けるためには学校だけではなく、確実に家庭や地域の協力が不可欠です。右図のようにロケットで考えてみましょう。「学校と家庭と地域の三本柱のエンジンで子ども達というロケット打ち上げ、軌道に乗せた後は、子ども達自身で学習を進めていけるようになること」を目指すことが大切だと思います。学習力を身に付けるのです。そこで、①学校での改善に加え、②子ども自身のやる気アップ、③家庭学習時間の十分な確保、④地域でしかできないような学習活動などを行い、子ども達の学力を向上させていきたいと思っています。

今後も保護者の皆様には改めて家庭での学習(質と量)についてご理解とご協力をいただき、子ども達への声かけやアドバイス、励まし等をお願いいたします。



◇◇「〇〇の秋」、さあ「読書の秋」をパワーアップ!◇◇

「読書は『心の栄養』、子ども達はご家庭で読書の時間をとっているでしょうか?学習時間もそうですが、読書の時間も自分でつくろうとしないと設けることができません。読書はすればするほど、自分に良い影響を与えてくれます。「読書の秋」でもありますし、改めて読書について考え、パワーアップして取り組んでみませんか?

よく言われることでありますが、「読書と子どもの学力は関係している」そうです。1つの情報として、「こそだてまっぷ R5 年 9/24 付」の記事を紹介します。そこでは、『本を読むことで、言葉や数字の理解力や記憶力、論理的思考や判断力などが鍛えられます。そのため、読書量が多い子どもは、学力が高い傾向にあることが分かっています』とありました。1つ前で紹介した全国学力学習状況調査の質問項目にも読書の項目があり、やはり読書量が多い子どもは正答率が高い傾向にあることがデータとして出ていることから明らかだと思います。

豊富な知識を得ることができ、知的好奇心を満たし、前述したような学力向上への効果を期待するには、読んだ「時間」よりも本を読むことが「好きか嫌い」が重要だそうです。では、子ども達が読書に興味を持ち、「読書好き」になるためにできそうな工夫を5つ挙げていきたいと思います。

①図書館や本屋に一緒に行く

子どもと一緒に図書館や本屋に出かけてみましょう。子どもが本を読みたがってなくても、保護者の方が自分で本を選んでいる姿を見せたり、楽しそうに読んだりすると、子どもは自然と本に興味を持つものです。子どもが興味を持った本と一緒に読んであげると、さらに興味の幅が広がります。

②映画・アニメの本から始めてみる

本を読むのが苦手な子には、映画やアニメの原作やノベライズ本などから始めてみるのもいいです。見たことがある映画やアニメの話であれば、ストーリーや登場人物も分かっているので読むのが楽になります。まずは、絵が多くても読むことに慣れ、内容の楽しさを知り、慣れてきたら徐々に文字だけの本に挑戦していくといいです。

③保護者が本を読む姿を見せる

読書が好きになるかどうかは、ご家庭での読書環境も大きく影響しているそうです。それは、子どもは親や身の回りの大人の行動をまねしたり、学んだりするからです。そのため、保護者の方が楽しそうに読書をしたり、集中して読書をしたりしている姿を見せると、子どもは本に興味を持ちやすくなります。子どもと一緒に読書の時間を設け、内容や感想を楽しく話して共有し、読書のおもしろさを子どもに伝えてあげるといいです。月に一度の「ぽかぽか読書」もご活用ください。家族での団らんの時間にもつながります。

④「読んでいて分からないことはいつでも聞いてね!」と声をかける

本を読んでいて、分からない言葉や内容があると、子ども達は本の読解が一度止まってしまう、読むこと自体を止めてしまうことがあります。分からない言葉を自分で調べるのも大切ですが、同時に読書のハードルも上がってしまいます。子どもに読書の楽しさを知ってもらうためには、保護者や大人のサポートが大切です。まずは、「分からないことがあったらいつでも聞いてね」と声をかけると安心して読書に取り組めます。もし質問してきたら、その言葉の意味やどんな場面で使われるのかなど、言葉の豊かさやおもしろさを伝えると語彙力もつきます。

⑤家のいろいろな場所に様々なジャンルの本を置いてみる

子ども達が読書好きになるためには、本に触れる機会を増やすことが大切です。いつも座るソファの隣やみんなが集まるリビング、自分の部屋など、いつでも本を読める環境をつくと楽しいです。その際、子どもが興味のある本だけでなく、絵本や物語、図鑑や地図、クイズやなぞなぞの本...というような種類の本があると、子どもは自分の好みや興味のある本を見つけたり新しい発見したりしやすくなります。読書環境が整うと、子ども達は自然と本を読むようになります。



他にもいいアイデアがあるかも!いろいろと試してみて、みんなが本好きになるといいですね。

→逆にしちゃいけないのは...?NG~!

- × ①無理やり本を読ませようとする
- × ②こちらが決めた本を読ませようとする
- × ③子どもが選んだ本を否定する
- × ④本の内容や感想を無理に聞こうとする

「読ませる」のではなく、「読みたくなる」ようにする働きかけや環境づくりが大切です。

この秋はこれを機に、ちょっとしたすき間の時間を活用したり、親子で読書の時間を設けたり、テレビやスマホの画面から離れる時間を増やして、本ともっとお近づきになりませんか?もっと本と仲良くなりましょう!